

基調講演 2

「探究×キャリア教育」がつなぐ高校・大学の学び

〔講師〕 酒井 淳平（立命館宇治中学校・高等学校）



（スライド1,2）改めまして、皆さん、こんにちは。酒井と申します。よろしくお願いいたします。今、自己紹介をしていただきましたが、私が一番紹介したいところは上の青字になっているところです。私自身は京都市立の養徳小学校、高野中学校、そして修学院中学校と育ち、京都府立北陵高校に行きました。大学も、京都の京都教育大学に行きました。ところが、当時は採用がない時代でして、拾ってくださったのが私学の立命館でしたので、今は私学に勤めています。ですので、このコンソーシアムを全て一人で制覇していると思い、それだけが私が登壇できる資格かなと思いながら、今日はお話しできればと思っております。

（スライド3）著書も過大な紹介を頂きましたけれども、本職が数学で、今はキャリア教育に取り組む中で探究にも関わらせてもらっています。

（スライド4,5）初めになんですけれども、私のお話の内容に行く前に、チェックインだけしたいと思います。先ほどのチームで1分半くらいお話を頂きたいです。1つ目が、先ほどの講演の

感想です。2つ目が、この時間に聞きたいこと、期待することです。3つ目が、今の学習指導要領で、キャリア教育はどう位置付いているかです。特に、この3番について交流していただきたいところです。1分半ほど時間を取りますので、先ほどのペアでお願いいたします。では、よろしくお願いいたします。

<話し合い>

時間が足りないのは重々承知の上ではあるのですが、次に行かせていただきます。

（スライド6）このスライドは、キャリア教育の前々調査官の藤田（晃之）先生がよく使われているスライドをお借りしてきたものです。上にあるとおりです。学習指導要領においては、小・中・高全ての学校種において、キャリア教育の充実と総則に明記されました。総則に書かれたので、特定の教科・科目ではなく教育課程全体で取り組みを進めていくことになりました。ところが、ここには高等学校の先生方がいらっしゃると思うのですが、学校現場ではどうですか。藤田先生は、こうなったからキャリア教育が進んだと言われます。法的にはそうなのかもしれませんが、各学校でこの実感はありますでしょうか。私の個人的な実感でしかないのですが、本来はキャリア教育と総合的な探究の時間は不可分なものですから、総合的な探究の時間が進むことは、キャリア教育も進んでいるはずだし、話題になると思っています。ところが、どうも最近、本校に限らず、学校現場でキャリ

ア教育があまり言われなくなった、その危機感があります。

(スライド7) 例えば、この数字です。186という数字なんですけれども、これは学習指導要領の本文に「探究」が使われた数です。ここから本当に現在の指導要領が、探究が重視されていることは分かると思っています。

(スライド8) 本日もなんですけれども、大きく3つ用意してもらいました。探究、キャリア教育についてです。そして2つ目が、本校の事例がメインになるのですが、生徒の学びから考える高大のことです。そして最後に、高大の学びをつなぐために、生徒を見ながら大事だろうと思っていること。以上についてお話しできればと思っています。

(スライド9) まず初めに、これは本当に個人的な疑問です。皆さんに「なんで？」と聞きたいんですけれども、探究的な学びは自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考えという学びですよ。私は数学の教員として、なぜ話題になるのかが分からないのです。数学の先生でしたら共感していただけると思うんですけれども、数学は誰かがつくってきた学問です。教科書なんて、みんなの探究してきた結果が、先人の探究の成果が置いてあるだけです。数学を学ぶというのは探究することだと思いませんか。私は他教科のことはあまり分かりませんが、多分、他教科でも同じだと思います。もしかしたら、数学は学ぶことが探究なんだけれども、空気の存在に気付かない感じで、当たり前過ぎて分からないのかなと、そんなふうに思ったりもします。そうは言いながら、本校でも他教科の先生に話を聞きますと、数学イコール解き方を教え込むみたいな印象があるのかなと思ったりもします。本来、探究は話題にするべきでもないというか、学ぶことは探究なんですけれども、話題にせざるを得ない現状があるのかなと思ったりはします。ここは、本当に他教科の話を知りたいと思っています。

(スライド10) これは、今、横浜創英というところで校長をされている本間(朋弘)先生のスライドです。今の高等学校において、ゴールが18歳になっていないかということです。本間先生は、もともとはずっと進学校で教員をされていて、大学受験の文脈ですごい成果を残されてきて、その実績で私学にヘッドハンティングされる形で異動されて現在に至る方です。本間先生が言われているのが、大学進学がニーズとしてもあるし、生徒の希望でもあるから、それを叶える責任が学校にあることはすごく分かります。だけど、18歳の頂点学力ばかり構築していたことをすごく反省していると言われていました。横浜創英はまさに、現在、新しい教育課程の実施、学びの転換に挑戦されていますが、もし、この現状があるとすれば、まだまだ今から改善の余地はあるかなと思ったりします。

(スライド11) 話を戻しますが、先ほど、私は本来、探究なんか話題になることでもないと思ってはいたのですが、もしかしたらそうっていない現状もあるのではないかなと思ったりします。かく言う私自身、私の授業を振り返ってみると「生徒が探究しているか。丸暗記しているだけじゃないかな」と思うときも正直あります。まだまだ自分の無力さも感じています。本来、話題にすべきではないかもしれないけれども、現状としてはまだまだ改善すべき余地があるとは思っています。

(スライド12) キャリア教育についてですが、そもそも学校は生徒の将来のためのものですから、キャリア教育の要素は自然と含むと思います。さらに社会に開かれた教育課程とは言いますが、学校は社会の中で存在しているものですから、本来的にその存在が社会に開かれていると思うんです。

(スライド13) さらに、3つの資質能力にしても、私も数学で加法定理を教えたりはしますが、咲いたコスモスを覚えてほしいわけでもないわけですから、知識・技能だけを教えた

くはないのです。数学を通して育てたい力もあれば、そこで思考力とかも付けてほしいし、困難なことに乗り越えていく力や分からないことを分かっていく力も付けてほしいと思います。恐らく、これはみんながやっていることだと思えます。ただ、これがあえて話題になることは、そうっていない現状があることの裏返しかと思えます。また、この3つの資質能力においては、上のオレンジ、「学びに向かう力、人間性」が本丸な気がします。思えば思うほど、ここはまさにキャリア教育の領域ですから、キャリア教育が学習指導要領の核であることは間違いないのではないかと考えています。

(スライド14~16)先ほど、長谷川先生から出してもらったスライドにあるとおり、日本の教育にはまだまだ課題があって、でも伸びしろもありますよね。テストはとて良いんですよね。でも、これは理科を例にしたものです。学ぶ意味を感じているか、ですが、とても低いです。

(スライド17)ざっくり言いますと、日本の教育の課題としては、テストの点数は世界トップレベルなのに、夢がないとか、責任ある社会の一員と思えていないとか、自分で国や社会を変えられると思っていない、この辺なのかなとは思っています。もちろん、これに対して対策は必要だとは思いますが、

(スライド18)そこが本当に〇〇教育でいいのかなと思います。例えば、将来の夢がないからキャリア教育とか、責任ある社会の一員と思えていないから成人を18歳に下げようとか、そういったことが行われているかもしれません。しかし、本当にこれで解決するのだろうかという思いはすごくあります。

(スライド19)今、我々が問われていることは、生徒観ではないかなと思います。小・中・高・大、それぞれ学校種による差はあるのかもしれませんが、生徒や学生はどんな存在ですか。サービスを受ける受益者なのでしょうか、社会の担い手なのでしょうか。そして、生徒や学生は管理指導さ

れることで学ぶ存在なのか、自ら学ぶ存在なのか、ここが問われている気がしてならないです。もちろん、ゼロヒャクはないと思います。例えば、100%自ら学ぶから放っておいてもいい、そんなことはないと思います。ただ、1つ言えることとしては、左側はサービスの受益者であり、管理指導されることで学ぶという、その生徒観が現状をつくっている気がするのです。

(スライド20)重ねてみました。仮に生徒をサービスの受益者と置いて、生徒は管理指導されることで学ぶ存在であるというふうに考えたときに、どんなことが起こるかという、当然、サービスの受益者ですから自分で国や社会を変えようなんてなかなか思えないと思います。そして、管理指導されているわけですから、学ぶ意味はなかなか見出しにくいです。受益者ですから、責任ある社会の一員とはなかなか思いにくいです。今の課題が、まさにこの生徒観から来ているのではないかと思うときがあります。

ですので、今、大事なこととしては、社会の担い手になって自ら学んでいく生徒に必要な取り組みはなんだろうと思ったときに、キャリア教育とか探究、ここに一番解があるといえますか、これこそが大事だろうと思っています。

(スライド21,22)ただ、キャリア教育をやってきた立場として思うんですけれども、キャリア教育もバージョンアップが要ると思います。皆さんはキャリア教育というと、特に小・中・高ではどんな言葉が出てくると思いますか。例えば、大学生に対して「キャリア教育何をやってきた？」と聞いたら、何が出てくると思われますか。おそらく多くの学生は職場体験ですよ。これはキッズニアの写真です。職場体験が悪いとか、キッズニアが悪いとか、そんなことは全くないです。もちろん、大事な体験なんです。今、聞きたいことは、我々は職場体験という機会さえも、生徒が失敗しないように、苦情が来ないようにしていないかということです。そしてキッズニアはお金を払っているから、働くことを楽しませてく

れます。同じようにして生徒をお客さまにしているだろうかということです。ここは、今、問うべきところかなと個人的には思っています。

(スライド23)ただ、OECDのEducation 2030からもあるとおり、世界的にも、今、学びに向かう力や人間性にフォーカスが当てられてきています。自ら成長しようとする火をいかに灯し続けていけるかどうか、ここに焦点が当たっていることは間違いありません。

(スライド24)そして、AIの時代だからこそ、好奇心と言語力、これしかないかなと個人的には思っています。結局、AIは問いを入れるから答えが返ってくるわけであって、問いは人間しか入れられません。道具を使いこなすのも人間です。さらに、好奇心がなければ入れる言葉だって思い付くわけがありません。こう思えば思うほど、今こそキャリア教育、そして探究の出番だろうし、出会いとか原体験の場としての学校の価値はますます高まるのではないかと思っています。

(スライド25)学校では総合的な探究の時間の開発として文部科学省の指定を受けてやってきました。そこで総合的な探究の時間はキャリア教育だと言ってしまうと誤解が生じるのです。そうではなくて、総合的な探究の時間はキャリア教育の視点を持って取り組むことが大事であると思っています。このスライドにあるとおりですが、総合的な探究の時間の目標は、キャリア教育で目指していることと本当に重なりますので、その視点を持つことができるかどうか重要だろうと思っています。



(スライド26)ここから次に行こうと思うのですが、少しだけここまでの整理をしたいと思います。また1分半の時間を取りますので、ここまでの感想を少し共有していただいてもよろしいでしょうか。よろしくお願いします。

<話し合い>

(スライド27)では、そろそろよろしいでしょうか。次の生徒の学びからのところに行きたいと思しますので、よろしくお願いします。ここから15枚ほどは、本校の取り組みの紹介となりますので、来てくださったことがある方については、重なる部分もありますが、ご容赦ください。

(スライド28)本校、立命館宇治中学高等学校ですが、30年ほど前に学校法人立命館と合併してできた学校になります。そして現在のカリキュラムは、学習指導要領改訂前の2018年度から始まったカリキュラムで、探究とキャリア教育を核としたカリキュラムになっています。そして、このカリキュラムですが、2017年1月にカリキュラム委員会がスタートしまして、私もその一員であったのですが、そこに集まった当方で30代から40代の中堅教員が議論したものが核となってつくられたものになります。今から、これについて少し紹介させていただきます。

(スライド29)まず本校としての今の結論であり、生徒に何度も言っていることなのですが、なぜ探究なのかということです。本校では特に、総合的な探究の時間においては、お客さまから生産者へということをおっしゃっており、このスライドはいつも生徒に示しています。お客さまというのは、ディズニーランドに行ったときのイメージでいいかなと思います。お金を払っていただけますけれども、入った瞬間夢の世界で、めちゃくちゃ楽しいではないですか。でも、あれは価値を提供してもらっていますよね。ディズニーランドが悪いわけでは全くないですが、与えてもらって、受け身に組み込んで、さらに依存していくサイクルがお客さまです。一方、生産者は価値を提供する側です。生産者は自らの発見、気

付きから動いて、自ら取り組んで、より動くという、そんなサイクルを回します。もちろん、両面あってこそその人生ではあるのですが、特に自立して社会の一員として働くことにおいては、価値を提供する側に回るわけですから、生産者になることがすごく大事です。そして、探究的な学びは生徒自らの課題設定から始まることから、生産者に育てるにはいいのではないかと、こんなことを思ってカリキュラムをつくりました。

(スライド30)そして、なぜ探究とキャリア教育を核としたカリキュラムにしたかですが、我々当時の教員の共通した思いがありました。それは、この図です。7年前の議論ですけれども、多分、今も同じ結論になると思います。「生徒は、どう?」という議論をしたときに、最近の生徒は、皆さんの学校ではどうですかね。私は世代的に、ちょっと上がめちゃくちゃ荒れていた時代でした。今は、そんな学校はほぼないですよ。内にこもるとかですよ。最近の生徒は真面目で素直という議論になったのです。真面目で素直だけれども、がつつ来ないです。そんな生徒に、より多くのものを与えたら、真面目で素直ですので、おそらくやるんです。でも、それより受け身にするだけではないかという議論になりました。今、我々がやるべきであり、やりたいことは、より多くのものを与えて、より受け身にするのではなくて、生徒が自ら動いていけるような核となる何か、それがマインドやスキルとかいろいろなものがあると思うんですけれども、核となる何かを育てたい。おそらく、それは今の学習指導要領を見ると総合的な探究の時間で実現できるのではないかと、そんなふうな仮説から今のカリキュラムはつくられました。

ただ、同時に思ったことがあります。それは教員の状態でした。我々教員は、みんな一生懸命やっているんです。ただ、一生懸命やっているんですけれども、年々横のつながりが薄くなってきたり、多忙化していく中で、我々もいっぱいいっぱいなのではないかと思いました。生

徒の核を育てるのであれば、我々教員も一緒に取り組むことによって力を付けて、より生徒を支えることができるように力量を上げたいだろう、そんなふうなカリキュラムにしたいと思いました。そんなふうな思いから総合的な探究の時間、本校ではコア探究と読んでいますが、そのようなカリキュラムがつけられていきました。

(スライド31,32)アンケートも取りました。カリキュラム委員だけの生徒実態は本当に当たっているかどうか不安もありましたので、全先生方に生徒の現状と育てたい生徒像を聞いてみました。やはり、思いは一緒でした。でも、お客さまから生産者にどう育てるかだろうということに意を強くして、改めてカリキュラム開発を進めてきました。文部科学省に出す書類等もこんな形で整えてはいたのですが、現在我々がつくっているカリキュラムとしては、3年間で探究を6サイクル回すカリキュラムと言っています。

(スライド33)こだわっているのは、右上のところ。学びのプロセスを経ながら、生徒のマイテーマにこだわって大学以降につなぎたい、この思いをカリキュラムにはすごく入れています。それは、もちろん、本校の生徒は、ほぼ大学に行くこともあります。本校は立命館の附属校ですから、立命館大学に行く生徒が多いです。ただ大学に行く、行かないに関係なくマイテーマにこだわること、これはすごく大事なことでと思っています。

(スライド34)高校2年生の例を紹介します。高校2年生は1年間かけてマイテーマを設定しようということで、課題設定のみに焦点を絞って授業をしています。ただ、「テーマを探せ」では授業になりませんので、カリキュラムとしては、初めは興味・関心からマンダラチャートを作ったりしながら、リサーチクエスチョンもどきを立てて、ミニ論文を書くことをします。そこでテーマを1個決めます。次は進路探究もして、もし学問を探究するならどんなものがあるだろうということで、志望理由書みたいなものも書き

ます。さらに社会課題に目を向けて、プロジェクトをつくるとしたらどんなプロジェクトがいいだろうということを考えて、2年では実装までは行けていないケースが多いんですけれども、プロジェクトからテーマを考えます。このようにいろいろなテーマ設定をしていく中で、改めてそれらの学習を振り返って、自分はこれだというものを決めます。そして、高校3年生では1年かけてそのテーマを追求していく、そんなふうなカリキュラムにしています。

(スライド35)ですので、高校3年生はこんな感じで1年間、徹底的にマイテーマを探究していきます。これは本校が大学の附属校ですからこうしています。もし私が、一般受験の多い学校に行ったら、半年から9カ月前倒ししていると思います。高校の先生方は推薦で決まった子がだれてしまう現状は苦慮されたことがあると思います。あの現象が起こりやすいです。ですので、意図的に後ろに倒して高校3年生最後まで思いっきり探究することで学習は進めております。

(スライド36,37) これも紹介させてもらっていいですか。これは「マイラーニングストーリー」と呼んでいます。本来は特別活動ですが、特別活動だけではなくて一部、探究の時間を使って作成しています。これは、ある生徒の図になります。高校3年間の振り返りを、ワークをした後で、このポスター作成に入ります。ポスターでは、自分の高校生活の振り返りをグラフにして、上がったところや下がったところは理由を書いて、高校で成長したことベスト5、残された課題、大学で頑張りたいこと、挑戦したいことベスト3、そして、その後どうなりたいかを書きます。上が将来付きたい職業や、なりたいたい自分像を書き、結果的に、この1枚を見れば過去・現在・未来の自分が少し見えるものを意識したのになっています。キャリアパスポートは小・中・高をつないでいくものですから、これはキャリアパスポートとは言えませんが、少な

くとも高等学校3年間に絞ればこれでキャリアパスポートになるのではないかと思います。

(スライド38) 生徒の探究例を1つ紹介させてください。野球部にいた生徒が「低身長でも140キロプロジェクトは成功するのか」というのをやりました。これは2年前ですかね、事例紹介をさせてもらったときに紹介させてもらったものです。この生徒は野球がしくてうちに来た生徒です。背が低い生徒でしたが、「俺でも140キロ出るのか」という疑問を持ち、徹底的に頑張って調べました。彼には申し訳ないですが、高校3年生卒業時の彼の作品は調べ学習に毛が生えた程度でして、探究の成果として高いか低い、そこだけを見れば決して高いとは言えないものでした。

でも、彼はそこで野球との関わり方を見つけ、結果的に立命館大学のスポーツ健康科学部に進学しました。そして、大学でめちゃくちゃ勉強したんです。今は4回生になりましたが、成績も結構良くて、学ぶことが楽しいと語ってくれます。そんな姿を見ると、もちろん、我々は高校教師ですから高校のときに頑張ってもらいたいと思います。でも、高校でまいた種が大学で開いてくれることも、我々としてはすごく大事なことかなと思ったりもします。

(スライド39) 大きな賞をもらったりする生徒もいました。

(スライド40) これは、ベネッセのVIEW next ONLINEで本校と仙台第三高校とのコラボ授業を取材してもらった事例です。これは、国語の教員が取り上げてもらいました。若い教員なのですが、彼女は最初、探究が大嫌いでした。探究が嫌いだったのに、私の学年に入ってしまった、やらざるを得なくなったという教員です。教員は教材研究が好きですし、自分の仕事が好きなんですよ。探究という名前が付いたときに、好きとか嫌いではなくて、生徒の様子を見て、これいいなと思ったら、頑張れるのが教員だと

思います。彼女は、生徒の様子を見ながら、自分の授業を変えていくことにもとてもめり込んでくれて、結果的に取材もしてもらいました。教員が成長することは、すごく大事なことはないかと思ったりしています。



(スライド41)ところで、ここからが今日の本題かもしれませんが、探究とキャリアと大学の学びはどうつながるのだろうかということです。これは我々も、今、どうなんだろうと思っているところですので、ここはあくまでも今の段階での意見ということで、お聞きいただいた上で、皆さんのご意見をお聞きしながらブラッシュアップできたらと思っています。

(スライド42)確かに、本校は探究を始めてからは、キャリア教育は確実に前進したと思います。溝上慎一先生がいつもされていましたが、将来の見通しがあるかないか、見通しがあるなら行動すべきことが分かっているかどうか、という4件法の質問です。探究をやる前の生徒で、高校3年生の卒業時に行動すべきことまで分かっている子どもは大体6割を切るくらいでした。探究を始めてからは安定して7割を超えています。15%ほど上昇していますので、おそらく確実に前進はしています。

(スライド43~45)また、こんな生徒もいました。この生徒は中学校から本校に来た生徒ですが、マイクロプラスチックにすごく興味があったらしくて、現代社会の授業ではこんな形で、化粧品にマイクロプラスチックが含まれていて、それは良くないからオーガニックな化粧品をつくりたいと、私たち高校生が資生堂とコラボし

たらできるのではないかという提案をしました。もちろん、当時の現代社会の授業、今は公共ですから、提案としてはそれで十分かなと思います。でも、これ以上は進まないですね。

(スライド46)彼女が3年生になったら、コア探究でもっと深めることができます。彼女はこのテーマが好きだったので、うじラボプロジェクトと名付けて、実際に企業を見つけてきました。残念ながら化粧品は薬事法の関係で無理でしたが、オーガニックなマスクスプレーを開発し、文化祭で販売等をしてくれました。

(スライド47)赤いところだけ見てもらったらいいのですが、彼女のプロジェクト報告書がこれです。1年生のときには提案しかできなかったけれども、3年生でできたから良かったです。つまり、我々が学んだことは、総合的な探究の時間があつたおかげで、生徒の課題意識がより具体的なアクションになったということです。

(スライド48)でも、教科も大事なんです。彼女はSDGsという学校設定科目や現代社会の知識があつたからできたということも言っていました。そして、その後、彼女は経営学部に行つたんですけども、私は経営学を学ぶからすごく良かったということを書いて卒業してくれました。我々としては、探究の時間は学びをつなぐし、生徒の学びを豊かにするのではないかということを経験から改めて思っています。

(スライド49)その彼女が1年3カ月後、オープンキャンパスに来てくれました。マスクスプレーが売れ残ってしまつて「先生、売れ残つたスプレーを取りに行きたいです」と彼女が言ってくれました。連絡があつた次の日に入試部長から「酒井先生、卒業生で探究をしゃべってくれる人は誰かいないですか」という連絡が来たので「ちょうどいいや」と思つて「取りに来るついでに、オープンキャンパスに来て、プレゼンもしてくれたら、めっちゃうれしい」と言つたら「はい」と言つてプレゼンをしてくれた、そんなことがありました。

(スライド50)彼女はオープンキャンパスで「プロジェクトを通して私たちはこんなことを学んで、結果的に興味を持って、夢を持って経営学部に行った」ということを言っていました。

(スライド51,52)さらに言ったのは、経営学部では、当然、初年次に基礎科目としてマーケティングや価格設定などの経営学などの基礎を学ぶらしいです。私は基礎を学んだときに「価格設定というのは、スプレーをいくらにするかの、あの話だ」とか「消費者ニーズって、私たちが売れると思ったスプレーがなかなか難しかったという、あの話だ」とか、やってきたことがこれと思えたから、学びが本物になったと言っていました。結果的に、彼女は成績もすごくいいんですけども、それは学んでいることが単なる文字ではなくて実体験としてあったからということも大きいと思います。彼女は自分なりに生産者になれたし、それが大学にもつながったということも言ってくれました。

(スライド53)他にもこんな例は幾つもありましたが、私なりに、今、思っているのが、学びがつながる条件はあるのかなと思っていて、この辺かなと思っているのが、このスライドになります。もちろん、高等学校での総合的な探究の時間がちゃんと機能しているという前提はあるのですが、その中で生徒がマイテーマを考えて、深めたり、そのテーマに本気で取り組むことです。できれば、学校の中にとどまらずに、人と出会うこともあったほうが良いと思います。そして、経験を振り返ることです。原体験、舞台、過保護過ぎないこと、与え過ぎないこと、こういったことがあると、もしかしたら学びはつながっていると思っているところです。特に、この原体験、舞台をもうちょっと補足させてください。

(スライド54)この生徒ですが、高校の探究で大豆ミートに興味を持ちました。環境問題から始まったんですけども、それをなんとか広げたいということで、探究テーマで取り組みました。高校では実際にハンバーガーをつくって、

売ったりしましたが、大学に行ってから、こんな形で実際に起業してやっていました。

(スライド55)彼、彼女の例を改めて考えると、高校の時から起業に多少興味がありました。文化祭で代替肉のハンバーガーを販売しました。起業にも興味を持ちながら立命館宇治高校に入学し、高校2年生のときにマイテーマを設定する総合的な探究時間があつたんです。このときに、上の学年の生徒が起業コンテストでいい結果を残してくれたおかげで、本校の生徒が招待してもらえて、出雲(充)さんに会えるチャンスがありました。彼は、そこに応募してきました。応募してきて、行ってきました。あの出会いは大きかったと思います。

さらに高校3年生に上がりますと、総合的な探究の時間がありますので、思いっきり探究ができて、いろいろな偶然の出会いがあつたりしながら文化祭に出しました。立命館大学でも起業家教育は進んでいますので、そのイベントも紹介したりしました。彼の軌跡をたどればたどるほど、原体験となる出会いですとか、実際に販売できる舞台があることはすごく大事と思いました。

(スライド56)二人は、大学のホームページを見ますと、こんなふうで紹介されています。立命館大学に入学してからは、奨学金等も活用しながら本当に事業化して、今も彼は頑張っています。このようなことが条件としてはあるのかなと、今、仮説として思っているところです。

(スライド57)今、個別最適とか協働と言われますけれども、協働的な学びで個別の学びが深まることも事実だろうと思っています。

(スライド58)これはお茶をテーマにしたまちづくりということで岡山県の倉敷翠松高校と本校とで、1年間コラボして、取り組んだポスターになります。彼らは3人チームで取り組んで、1回向こうに行ったり、向こうからも来てもらうことをやりました。そのプロジェクトの中身は置いておきまして、彼らの動機を見てみました。A君

は、お父さんが茶農家だったんです。Bさんは、農業に興味がありました。Cさんは、食に興味がありました。みんな興味・関心は微妙に違います。でも、その3人が一緒になってプロジェクトを進めることで、学びは深まり、進みました。

(スライド59)プロジェクトの感想を見ても個別でした。A君は、自分から行動することが大事だとすごく感じていたようです。一方Bさんは、自分に自信が持てたらしいです。Cさんは、国際経営を学びたい、海外の方にも需要がある商品の販売方法を研究したいというふうに、キャリアやアカデミックに興味を持ったみたいです。いずれにしても、プロジェクトそのものが生徒の人生にも大きな影響を与えたことは間違いないのですが、その背景としては協働的な学びによって個別の学びが深まったことが大きかったのではないかと考えています。

(スライド60,61)この辺のことを推理すると、探究とキャリア、大学のつながりは、高校生が高校卒業時にマイテーマを持つことがすごく重要です。総合的な探究の時間は自己のあり方、生き方と不可分な課題を探究するんです。とすれば、総合的な探究の時間にちゃんと取り組み、生徒は自己のあり方、生き方と不可分な課題を探究しますので、それは結果としてキャリア教育が充実することになるのではないかと考えます。その結果、生徒は探究とキャリア、大学での学びをつないでいくのではないかと考えています。

(スライド62)ここは高等学校として大事なことだと思うんですけれども、高校はマイテーマ設定のすごく大事な時期だと思います。と言いますのは、進路だけ考えても、小学校は絶対に義務教育で中学校へ行けるんです。中学校は高校へ行くときに受験がありますけれども、大多数は普通科に行きますよね。確かに高校の特色はありますし、その選択はありますが、高校から大学に行くほどの選択肢はなくて、やはり普通科が多いです。ところが高校に行くと、

進路がすごく多様なんです。それは大学に行く、行かないとか、そういうことだけではなく、仮に大学に行く、もっと言えば京都大学に行く決めても、学部があります。もし就職するのなら、どこの会社かを決める必要がありますし、専門学校へ行くなら自分の専門分野を決める必要があります。大学は学部を決める必要があります。これを言い換えれば、今後、深めたいテーマや深めたいアプローチを決める必要があるということなんです。つまり、どの進路に進むにしても、高校卒業時に自分がどんなことに興味があるのか、どんなことで社会貢献できるのか、このことをちゃんと考えることが必要である、これは私たちが忘れてはいけないことだろうと思います。ここは先生方が多いと思うんですけれども、我々教員は昔に学んだことで生活していくことができる特殊な業界かもしれませんが、どこかで教育をマイテーマと定めて、教員と決めて今があると思います。ですので、高等学校でのマイテーマの設定は、どういう進路であれ大事です。こう思ったときに総合的な探究の時間はすごく可能性があると思います。

(スライド63)でも、課題設定は難しくないですか。生徒は、どこかで偶然の出来事や出会いがあって生徒は決めていきます。仮でもいいから、決めて、次に進めて、変更していきますよね。結局、我々はどれかヒットしたらいいなと思って、いろいろなボールを投げていると思います。仮でもいいから決める機会を決めて、そこで指導していつているのではないかと考えます。ですので、私は自ら課題を設定する探究は、難しい課題設定を練習するチャンスでもあると思っています。

(スライド64,65)ですので、本校では、課題設定において生徒が決めたなら「浅いから、失敗しないテーマに指導する」とか「生徒がテーマを決められないから、こちらで決める」とか「どうしていいか分からないから、こうしておこう」とか、そういうことはしません。伴走は重要です

けれども、丁寧な指導をすればするほど教員の仕事が終わらないし生徒は教員の答えを待つ気がします。むしろ浅いテーマだったと生徒が気付く場をつくろうということを意識しています。

生徒がテーマを決められないから与えるというのは、分からなくもないですが、そう思ったら本当に決められない気がします。何より、これでこちらが与えたら生徒は与えられて終わってしまうのではないかと思います。放っておくというのも、伴走するからこそ深まると思います。

(スライド66) ですので、本校の場合は、問いとして「高校生活の集大成として来年1年間かけて取り組むなら、何にする?」ということを示した後で、今まで自分がやってきたテーマ設定を、探究の授業だけではなくて、中学校の授業とか、社会科の授業とか、小学校の自由研究とか、クラブとか、そんなことも振り返りながら1回、自分の根っこを探ることを授業でしたりしています。

(スライド67) 本校としては、すごく大事にしているのは、この4つです。1つ目が、課題設定も練習なので何度か練習すること。2つ目が、これは仮のテーマだから、仮だけど、いったん決めて進むこと。別に駄目だったとしても戻ったらいいから、まず決めてみようということです。3つ目が、いろいろな経験はマイテーマに出会う確率を高めるに過ぎないと思っています。こうやったら100%行けるものがあればいいんですけども、多分、ないです。私は数学だから思うんですけども、サイコロを投げて1を出したかったら、さいころをどう投げるかを研究するより、いっぱい投げたらいいと思うのです。(スライド68) ですので、確率を高める指導をすることです。そして、ポイントは振り返りで、テーマ設定が悪かったことに生徒が気付くことを大事に指導しているつもりです。

(スライド69,70) 振り返りにおいては、こんな形で生徒が自己評価をした後に対話をし、もう

1回、自分で振り返るというプロセスで振り返りをしています。

(スライド71) 次のプロセスに行くのは、振り返りがあるからではないかと思っています。

(スライド72,73) 生徒の声です。これは、スライドにもあります。今まで出てこなかった生徒の例ですが、キャリア教育は大事だなと思わせてくれる生徒はいっぱいいます。その1例が彼女です。自分の内側の質問をされたとか、答えを外に探す必要が多いけれども、実は自分の中に見つけていたとか、こういうことはすごく大事だと思っています。この子は、文部科学省の私のアントレプレナーシップに偶然載っていたんです。こんなふうに大学でも頑張ってくれています。

(スライド74,75) 私個人としては、キャリア教育に取り組んできたときに生徒の差に悩んでいました。時間もなかったんです。生徒が面白そうな大学、学部からカタログギフトなどで選ぶような感覚がすごくあったんです。これは総合的な探究の時間で100%解決していませんが、指導の機会は増えていきますし、チャンスは増えています。つまり、確率は高まったと思っています。おそらく探究×キャリア教育で、高大連携もより良くなるのではないかと考えています。

(スライド76~78) 最後、これだけお話しして終わらせてください。高大接続もバージョンアップが必要ではないかというのが私の仮説です。ぜひ、またご意見を聞かせてください。高大接続は、生徒が次の世界に行くチャンスだと思うんです。でも、そこで生徒をお客さまにしてしまうと全然いいことがないのではないかと考えています。

(スライド79,80) 誰が学びをつなぐかなんですけども、小学校はカリキュラムマップがすごく大事にされていて、教員がある程度つなぎます。これはすごく大事だと思います。高校は、先ほどの本校の生徒の例ではありませんが、教育課程なり、学校としてマップらしきものを持って

おくのはいいですけれども、そこを生徒が自分でつないでいくことが大事なのではないかと思っています。

(スライド81) 昔から言われていることわざです。無理やり水を飲ませてはいけないということで、生徒をどう見るかではないかと思っています。

(スライド84) 高大接続です。おそらく昔は入試イコール高大接続でした。1999年の答申から変わってきました。少子化、探究の広がり、大学入試改革、今は本当にいろいろなことが広がってきています。でも、気になるのは、現場の先生の取り組みが増えて疲弊しているのではないか、とか、より生徒がお客さまになっているのではないか、ということです。そろそろ次のフェーズではないかと思っています。何が次のフェーズかは、私もまだ分かってないです。

(スライド85,86) これは川合(宏之)先生の論文からですが、入試の接続だけではなく、そろそろ教育接続に行く時期だろうと思っています。さらに、もしかしたら入試で育てることもあるのかもしれませんが。これは、文部科学省の好事例集からですが、産業能率大学さんの入試です。これは生徒がオープンキャンパスへ行ったり、セミナーを受けたりして、その大学で本当にいいのかどうかを確かめながら、つまり入試のプロセスを経て、より入学動機を高めながら選抜されていく入試です。もしかしたら、これからはこんなこともありかもしれません。

(スライド87,88)ただ、結局は一緒に高校生のWillをどう育てるかではないと思っています。高校生は大学に行くときにマイテーマの設定が大事です。そのポイントは大学での学びを生徒が知って、Willを持って進学をすることだと思います。そのときにお客さまにするのではなく、負の部分も見せて、それでも生徒がちゃんと選べるかとか、win-winになれるかです。イベントだけやっていたら、多分、しんどいので、どうwin-winをつくるかだろうと思っています。

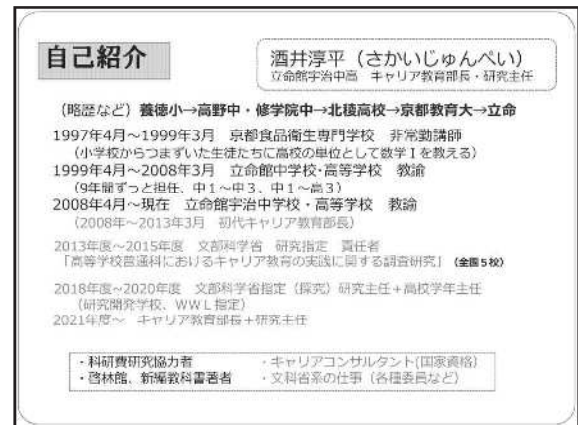
ただ、やり方はともかくとして、いかにWillを育てることができるか、それが本当に高大で連携してできるのかどうか、これは次のフェーズだろうし、私もこれは考えていくべきテーマだろうと思っています。

以上で時間となりました。ご清聴、ありがとうございました。

スライド 1



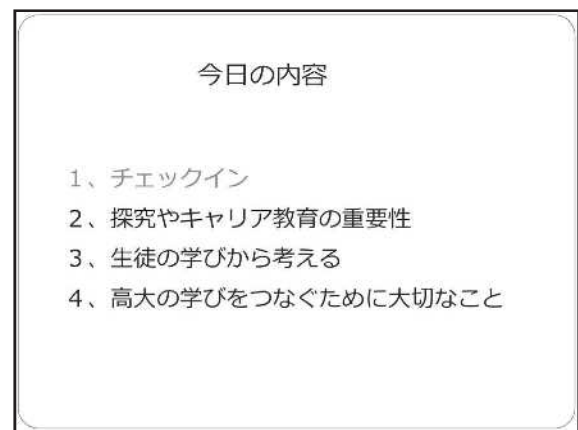
スライド 2



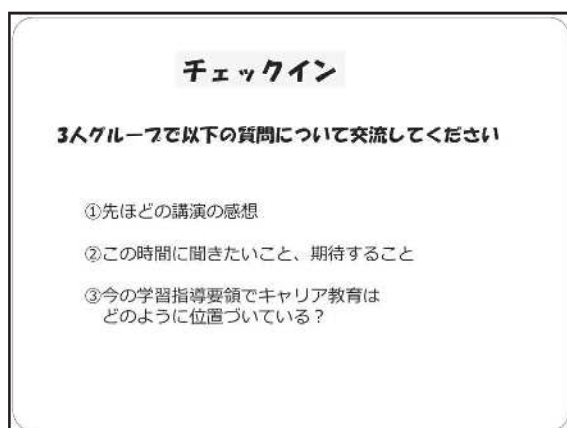
スライド 3



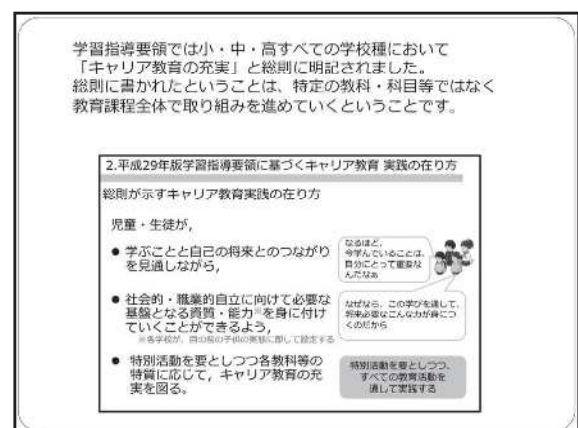
スライド 4



スライド 5



スライド 6



スライド 7

問題です！

この数字は何？ (学習指導要領に関わる数字)

1 8 6

スライド 8

今日の内容

- 1、チェックイン
- 2、探究やキャリア教育の重要性
- 3、生徒の学びから考える
- 4、高大の学びをつなぐために大切なこと

スライド 9

探究的な学び：
自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決するような学び

なぜ探究が話題になるのだろう？

数学の現在地は探究の成果そのもの。
⇒数学を学ぶことは探究することなのでは？
(これはどの教科も同じはず)

数学にとって当たり前すぎるから、逆に難しい？


実は数学は話込みだと思われている？
数学＝解き方を教え込むという現状がある？

みなさんはどう思われますか？

スライド 10

ゴールが18歳になっている現状がある？

「自分がそれまでの教員生活で行ってきたのは、『18歳の頂点学力』の構築でした。希望する大学に合格するということは、生徒にとって夢の実現だから、それを支える責任を学校は負っている。



しかし、大学進学のための学力育成ばかりに重きを置いて、自分が教えた生徒が大学に入ってどうなっているのか、社会で活躍しているのか、そういったことにほとんど関心を持ってこなかったことに気づいたのです」

横浜創英中学・高等学校
本間朋弘校長

⇒現在、新しい教育課程の実施・学びの転換に挑戦中
(種を軸に、社会とつながる実学を軸に、探究型を軸に)
<https://toyokeizai.net/articles/-/747693>

スライド 11

探究的な学び：
自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決するような学び

なぜ探究が話題になるのだろう？

数学の現在地は探究の成果そのもの。
⇒数学を学ぶことは探究することなのでは？
(これはどの教科も同じはず)

数学にとって当たり前すぎるから、逆に難しい？

実は数学は話込みだと思われている？
数学＝解き方を教え込むという現状がある？

⇒教科を学ぶことは「探究」そのものだが、そうっていない現状もあるのかもしれない

スライド 12

素朴な疑問①

そもそも学校は生徒の**将来のためのもの**

➡ **なぜキャリア教育の必要性が言われる？**
(言われるまでもなく実践されているのでは？)

なぜ社会に関われたが強調される？
(自然と開かれているのでは？)

スライド 13

素朴な疑問②

なぜ3つを強調する必要がある？
 (図から、キャリア教育が今回の学習指導要領の本丸であることはわかる)

→ これらを育成することは当然ではないのか？

「学力の定義」が変わる

3つの資質・能力

学びを人生や社会に活かすための学びは真の学力・人間性の源泉

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成

※文科省「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(審議)」(2016.12.22)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyoku/houshin/1580731.htm

スライド

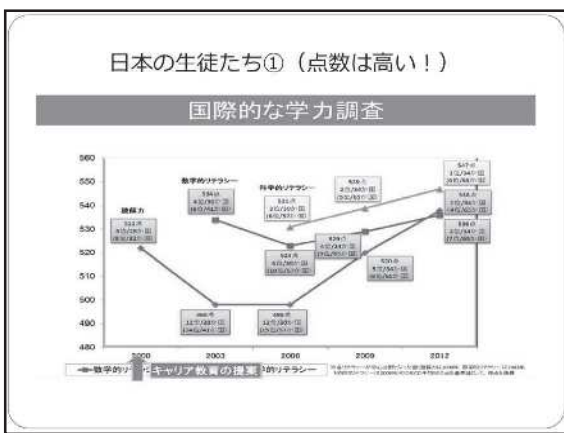
教育の現状に課題があるのも事実

Q1: あなた自身について、お答えください。(各回N=1000)
 (※各質問「はい」回答割合)

質問	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
1. 学校で学んだ知識・技能が、社会で役立つと感じる	84.1%	82.0%	85.4%	81.9%	86.1%	83.4%	83.2%
2. 学校で学んだ知識・技能が、将来の職業で役立つと感じる	79.4%	80.0%	91.0%	88.2%	74.6%	79.1%	78.1%
3. 学校で学んだ知識・技能が、日常生活で役立つと感じる	45.1%	44.8%	52.2%	50.0%	71.8%	54.6%	54.6%
4. 学校で学んだ知識・技能が、趣味・余暇で役立つと感じる	83.7%	84.9%	92.4%	87.0%	79.5%	77.0%	77.0%
5. 学校で学んだ知識・技能が、健康増進に役立つと感じる	83.0%	86.8%	88.0%	89.8%	73.4%	87.7%	87.7%
6. 学校で学んだ知識・技能が、地域貢献に役立つと感じる	82.2%	84.8%	81.1%	80.2%	78.0%	74.6%	74.6%
7. 学校で学んだ知識・技能が、国際交流に役立つと感じる	78.1%	88.6%	84.7%	85.7%	78.4%	86.4%	86.4%
8. 学校で学んだ知識・技能が、防災・減災に役立つと感じる	82.6%	84.4%	82.4%	81.0%	86.2%	86.2%	79.1%

日本 THE NIPPON FOUNDATION

スライド 15



スライド 16

日本の生徒たち② (意欲は低い!)

Exhibit 8.2: Students Value Science (理科全般について一語して質問し、国際比較可能な26カ国・地域における順位)

Country	General/Integrated Science		Science		Life Science		Average Score/Item
	Percent	Ranking	Percent	Ranking	Percent	Ranking	
Canada	86.1%	23 (11)	74.0%	26 (12)	4.6%	204 (181)	114.04%
Denmark	86.0%	24 (11)	74.0%	26 (12)	7.6%	204 (181)	112.04%
Finland	86.0%	24 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	111.04%
France	85.0%	25 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	109.04%
Germany	85.0%	25 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	108.04%
Italy	85.0%	25 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	107.04%
Japan	84.0%	26 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	106.04%
UK	84.0%	26 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	105.04%
USA	84.0%	26 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	104.04%
Australia	83.0%	27 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	103.04%
Spain	83.0%	27 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	102.04%
Sweden	83.0%	27 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	101.04%
South Korea	83.0%	27 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	100.04%
China	83.0%	27 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	99.04%
India	83.0%	27 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	98.04%
South Africa	83.0%	27 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	97.04%
Brazil	83.0%	27 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	96.04%
Mexico	83.0%	27 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	95.04%
Argentina	83.0%	27 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	94.04%
Colombia	83.0%	27 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	93.04%
Vietnam	83.0%	27 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	92.04%
Indonesia	83.0%	27 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	91.04%
Malaysia	83.0%	27 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	90.04%
Philippines	83.0%	27 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	89.04%
Thailand	83.0%	27 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	88.04%
Turkey	83.0%	27 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	87.04%
Poland	83.0%	27 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	86.04%
Czechia	83.0%	27 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	85.04%
Slovakia	83.0%	27 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	84.04%
Hungary	83.0%	27 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	83.04%
Romania	83.0%	27 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	82.04%
Bulgaria	83.0%	27 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	81.04%
Croatia	83.0%	27 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	80.04%
Slovenia	83.0%	27 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	79.04%
Lithuania	83.0%	27 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	78.04%
Latvia	83.0%	27 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	77.04%
Estonia	83.0%	27 (11)	74.0%	26 (12)	8.0%	204 (181)	76.04%

IEA, TIMSS 2011 INTERNATIONAL RESULTS IN SCIENCE.

スライド 17

日本の教育の課題

テストの点数は世界トップレベル!

なのに、、、

- 将来の夢がない
- 自分は責任ある社会の一員だと思えてない
- 自分で国や社会を変えられると思えてない
- 解決したい社会課題がない
- 学ぶ意味を見いだせてない

スライド 18

〇〇教育でいいの?

将来の夢がない ⇒ キャリア教育

自分は責任ある社会の一員だと思えてない ⇒ 18歳成人教育

自分で国や社会を変えられると思えてない ⇒ 主権者教育

スライド 19

今、問われている生徒観

生徒はどのような存在ですか？

- 生徒はサービスの受益者？社会の担い手？
- 生徒は管理・指導されることで学ぶ？自ら学ぶ？

左側の生徒観が現状につながっているのでは？

スライド 20

生徒観

- ・生徒はサービスの受益者 (⇔社会の担い手)
- ・生徒は管理・指導されることで学ぶ (⇔自ら学ぶ)

日本の課題

- ・自分で国や社会を変えられると思えていない
- ・学ぶ意味を見いだしてない
- ・責任ある社会の一員と思えていない
- ・解決したい社会課題がない ・将来の夢がない

生徒観がそのまま今の課題につながっている！
今大切なのは、生徒観の変化 (左から右へ)

➡ 社会の担い手になり、自ら学んでいく生徒に必要な取り組みは何？と考え、キャリア教育や探究の重要性は明らか

スライド 21

キャリア教育はバージョンアップが必要

キャリア教育と
言えば、これでは？



↓

今、変わるべきはこのイメージ！

スライド 22

生徒をお客さま扱いせずに、
社会の担い手を育てるキャリア教育を！

必ず実践している！

↓

対生徒：指導の視点は生徒の未来
対自分：自分の役割を果たす

自分の指導をキャリア教育の視点で見直すと、
より意味づけができる (目線を少し先に)。

意外と難しい！

×職業教育
○人間教育

スライド 23

OECD・Education2030



世界的な学びの潮流のなかでも、「学びに向かう力・人間性等」が重要だと考えられている

大人になっても、自分が成長しようとする火を灯し続けていくことが、これからの時代、とくに必要。土台をつくるのが、中高生の時期。

文科省板倉さんの記事 (2020, 6)
<https://www.okai.co.jp/study/interview/200623-manabi-3/>

スライド 24

AIの時代だからこそ好奇心と言語力が重要！

AIに問いを入力するのは人間！
道具を使いこなすのも人間。
言葉で入力するが、その根っこは好奇心

キャリア教育 (＋探究) の出番！

学校は「出会い」「原体験」の場！

スライド 25

総合的な探究の時間はキャリア教育の視点を持って取り組むことが重要！

(総合的な探究の時間の目標) (特に新規のところ)

- 自己の在り方・生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していく
- 新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う

キャリア教育 = **キャリア発達**を促す
→ 社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく過程

自分の役割を果たすことを考える際に重要な問いは
「自分はどのような課題を発見・解決したいのか？」
「自分はどんな生き方をし、どんな社会を創りたいのか」

= これは総合的な探究の時間の目標そのもの！！
(これはキャリア教育の手引きにも記載。裏話あり)

スライド 26

ここまでの感想など
少し共有してください

スライド 27

今日の内容

- 1、チェックイン
- 2、探究やキャリア教育の重要性
- 3、生徒の学びから考える
- 4、高大の学びをつなぐために大切なこと

スライド 28

本校の軌跡 (探究に関わること中心に)

1994年度 学校法人立命館と合併
→ 学校大改革、先進的な取組多数
(挑戦するという文化がある！)

① 2013年度 CSL (キャリア教育授業) 開始
(文科省研究指定を受けての取組み)
⇒ 生徒の成長 + 多くの学校に広がるという予想外の成果あり！

↓

② 2017年1月 カリキュラム委員会スタート
(若手～中堅教員がチームとなって次の学校作りを考える)
⇒ 似たような問題意識！ コアの必要性が共通認識になる！

↓

③ 2018年度 新カリキュラムスタート
(文科省の研究開発指定校として総合的な探究の時間のモデル作り)

探究だけではない

スライド 29

本校の今の結論

なぜ探究なのか？

受益者 **お客様** (与えてもらう、さらに依存)

生産者 **社会の創り手** (発見・気づき、自ら取組む)

探究

受身に取組む → より主体的

もしかしたら今の社会の風潮も、教員の努力も、結果的に生徒をよりお客様にしているのかもしれない。この点で、イベント的なキャリア教育もバージョンアップが必要！

スライド 30

カリキュラム委員会での議論
(クラブや教科固有の課題ではなくすべてに共通したものがある！)

生徒

教員

教科

教員：コアが教科を越えた教員の繋がり場に
→ 教員集団の力量UP!!

スライド 31

教員アンケートで確認

生徒の現状： 従順だが口をあけて待っている

↓ **探究**

育てたい生徒像：

意欲（学ぶこと・人生のもの）にあふれ、自ら学び行動できる生徒

お客さま
生産者

探究でお客様を生産者に！

スライド 32

キャリアと探究を柱にしたコアの育成

IBにはコアがある！
日本版コアは総合で可能では？

コア科目と各教科との関係・イメージ図

2018年度から実施！！

スライド 33

3年間で探究を6サイクル！
(当初作ったものでなく、実践して修正したもの)

マイテーマにこだわり、
大学以降につなごう！

1年次	<ul style="list-style-type: none"> 問いを立てることから学ぶ意味の探究 学びや経験を自分の未来とつなぐ 	<ul style="list-style-type: none"> 探究の基礎 大人の本音を題材にした仮設スナールの学習 学ぶ意味、働く意味、リフレクション
2年次	<ul style="list-style-type: none"> 自らが解決したい社会課題の設定 自分の探究テーマ・研究課題の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 課題（マイテーマ）の設定 テーマ×マイテーマ 探究×マイテーマ 好きなこと（論文）×マイテーマ
3年次	<ul style="list-style-type: none"> 自らのキャリアと結びつけた課題研究 課題研究の発信やプロジェクト化 	<ul style="list-style-type: none"> 論文・卒のスピーチへ マイプロジェクトの発信（論文・プロジェクトなど） マイラーニングストーリー（リフレクション）

スライド 34

高2 コア探究（マイテーマの設定）

STAGE 1
興味関心→テーマ設定
(知識：論文の書き方)

STAGE 2
希望進路→テーマ設定
(知識：進路について)

STAGE 3
プロジェクト→テーマ設定
(知識：プロジェクトのPDCA)

ゴール！ → 3つのSTAGEの学びを元に、高3で自分が取り組む研究課題を設定！

コンクールに出してみよう！

志望理由書も書きます！

プロジェクトを実行します！

スライド 35

<コア3・1年間の予定>

卒業！

＜今年度作成する成果物＞
・研究論文（8000文字以上）
or PJ+報告書
or 発表レポートなど
・ポスター
・マイラーニングストーリー

大学以降の学び方！

発表

研究論文PJ報告書

ポスター
マイラーニングストーリー

PJ実行
論文版完成！
いろいろ発信！

＜必須！＞
・1冊本の発表
・PJ等は何らかの学外発信

4月 9月 1月 3月

アクトライン

スライド 36

高3 コア探究

「マイ・ラーニングストーリー」作成

・高校の自分の成長をポスター（パワポ）で表現
・必ず入れる項目は以下の通り

- ①自分の成長の軌跡（学年ごと）
- ②③から選ぶ自分の成長ベスト5
- ③残った課題＝大学でつきたい力 ベスト3
- ④高校のエピソードや感想、写真などを適宜入れる
- ⑤大学での生活や将来への抱負
（こんなことを頑張る！こういう経験をする！）
- ⑥将来こんな人になる、こんな仕事につく

→⑥は自分マニフェストを見ればベースがあります！


スライド 43

探究が つなぐ 学びのストーリー

Aさん (女子・中学校から立命館宇治、内部進学希望、文系)

高1 現代社会「SDGsアイデア報告会とリフレクション」

グループごとに考えたアイデアを報告

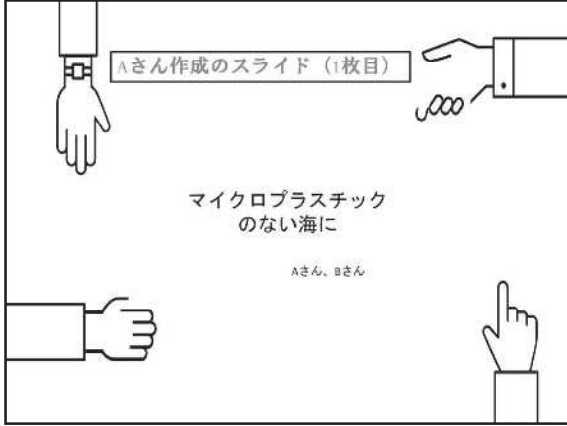


スライド 44

Aさん作成のスライド (1枚目)

マイクロプラスチック
のない海に

Aさん、Bさん



スライド 45

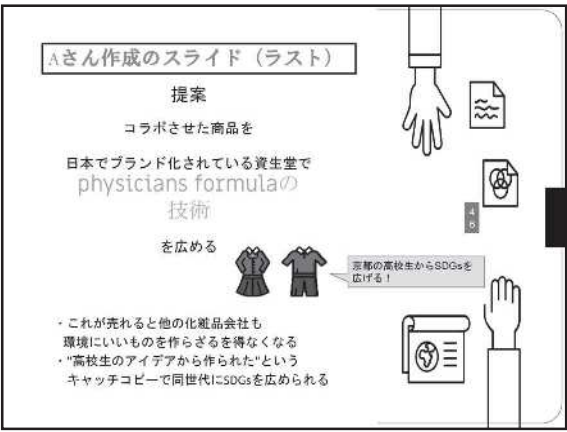
Aさん作成のスライド (ラスト)

提案
コラボさせた商品を

日本でブランド化されている資生堂で
physicians formulaの
技術を
を広める

京都の高校生からSDGsを
広げる!

- これが売れると他の化粧品会社も
環境にいいものを作らざるを得なくなる
- "高校生のアイデアから作られた"という
キャッチコピーで同世代にSDGsを広められる



スライド 46

2年後 Aさんは3年生になりました

(探究テーマ)
「うじラボプロジェクト」

企業とコラボし、オーガニックな
マスクスプレーを開発
→文化祭で限定販売



"高校生のアイデアから作られた"という
キャッチコピーで同世代にSDGsを
広めてるのでは?



スライド 47

Aさんのプロジェクト報告書

「私は高校一年生の時の現代社会の課題で、オーガニックな会社とコラボして環境や人体に良い化粧品や日用品を作る」ということを考えましたが、その時は行動に移すことができませんでした。

しかし、今年(高3)のコア探究で、そのプロジェクトを進めることができました。一年生の時はただ頭に思い描いていただけのプロジェクトを実際に形にするということが、すごく大きなモチベーションになりました。

総合的な探究の時間があることで、Aさんの課題意識はより具体的なアクションにつながる!!

スライド 48

各教科の学びも重要

「(プロジェクトを進めるにあたって)現代社会の授業で詳しく調べていたため知識も多く、このプロジェクトの大きな力になれたと思います。また、私はSDGs(本校の学校設定科目)の授業で環境について学んでいるので、そこで学んだこともこのプロジェクトで生かすことができました」。

学びが将来につながる

「私は大学で経営学を学ぶので、すごくためになる経験をさせていただけたなと思います」

総合的な探究の時間は、学びをつなぎ、生徒の学びを豊かにする!生徒は学校を出ると大きく育つ!!(本校がようやく気づけたこと)

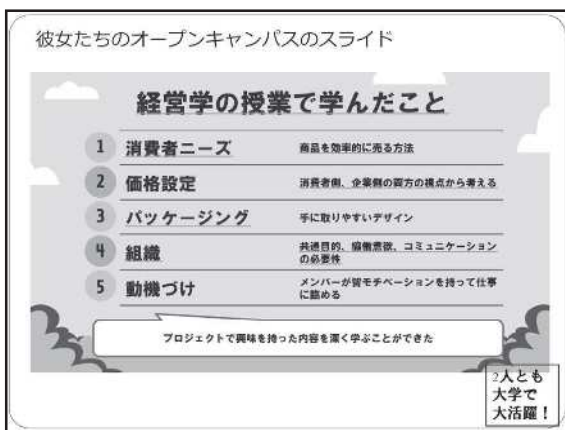
スライド 49



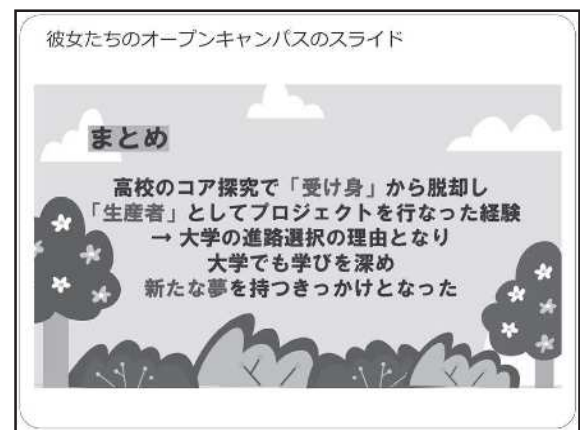
スライド 50



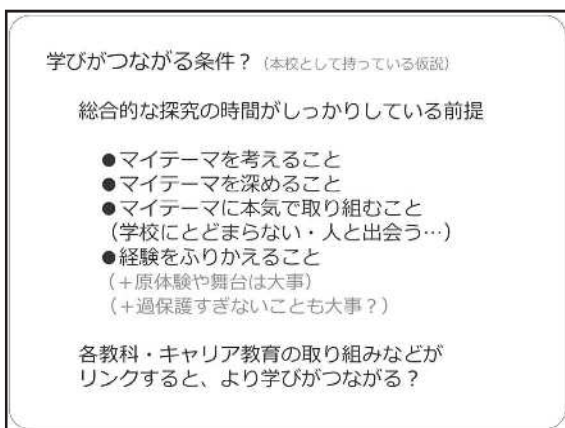
スライド 51



スライド 52



スライド 53



スライド 54



スライド 55

菅原くん（経営2）・大西さん（総合心理2）

高校時代から起業に興味を持ち、文化祭で代替肉のハンバーガーを販売するなどしてきた。

- 起業にも興味を持って立命館宇治高校に入学
- 高校2年次にマイテーマを設定する総合的な探究の時間
 - ・・・ユークレナの出雲社長と会えるイベントに参加できるチャンスをつかむ！
- 高校3年次の総合的な探究の時間でテーマを深める
 - ・・・その中で偶然の出会いもあり、文化祭出店
 - ・・・大学も起業家教育を進めており、そちらのイベントも紹介

原体験（出雲さん）と舞台（文化祭など）が重要！

スライド 56

大学での2人



立命館大入学後は、大学が学生を支援するための奨学金を活用し、代替肉を仕入れて食のイベントに出店するという活動を続け、同級生とともに1月に事業化にこぎつけた。

<https://www.ritsumei.ac.jp/news/detail/?id=1674> にも詳しい記事があります


スライド 57

協働的な学びで、
個別の学びも深まる

スライド 58

生徒の例（現在1回生）

お茶による街づくりをテーマにした協働プロジェクト
倉敷翠松高校×立命館宇治



Aくん「父が茶農家」
Bさん「農業に興味があった」
Cさん「食に興味がある」

→「お茶で地域活性をしたい」という思いは共通だが、興味関心は少しずつ違う。

スライド 59

生徒の例（現在1回生）

プロジェクトを終えての感想から

Aくん「自ら行動していかなければ、人とも会えないし、物語が始まらない。これからも行動したい」
Bさん「自分にいように自信が持てた。プロジェクトの一員に慣れたのは私の誇り」
Cさん「国際経営学について学びたい。海外の方にも需要がある商品の販売方法を研究したい」

プロジェクトは生徒の人生にも大きな影響を与えた。その背景には協働的な学びで、個別の学びも深まったことがある。



スライド 60

探究とキャリア・大学のつながり

- ・ そもそも高校卒業時に生徒がマイテーマを持つことが必要。
- ・ 総合的な探究の時間は、自己の在り方・生き方と不可分の課題を探究する。

➡ キャリア教育は総合的な探究の時間でより充実するのが当然。その結果、生徒は探究とキャリア・大学での学びをつないでいくのでは？

スライド 61

総合的な探究の時間はキャリア教育の視点を持って取り組むことが重要！

(総合的な探究の時間の目標) (特に新規のところ)

- 自己の在り方・生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していく
- 新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う

キャリア教育=キャリア発達を促す
→社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく過程

自分の役割を果たすことを考える際に重要な問いは
「自分はどのような課題を発見・解決したいのか？」
「自分はどんな生き方をし、どんな社会を創りたいのか？」

= これは総合的な探究の時間の目標そのもの！！
(これはキャリア教育の手引きにも記載。裏話あり)

スライド 62

自分のテーマを設定することは高校でこそ重要なこと

(進路)
小学校→中学校に進学する。中学は学科などはない。
中学校→多少の選択はあるが、**大多数は普通科**。
高校→進路は多様。大学に行くとしても**学部を決めて進学する**。

<高校の進路決定>
・就職の場合→何を売ってる会社で、何をしたいのか決める
・専門学校→自分の専門分野を決める
・大学→学部を決める=今後深めたいテーマや方法を決める

⇒いずれの進路に進むにしても高校卒業時に、自分がどんなことに興味があるのか、どんなことで社会に貢献できるのかを考える必要がある。
(私たち教員も(特殊な業界だが)どこかで教育・教科と決めて今がある)

スライド 63

課題設定において大切なこと

マイテーマの設定・課題設定は難しい

- どこかで自分に影響ある出来事や出会いがあり、それに影響される。
- 仮に決めることで次に進める。決めてもその後変更できる。

⇒私たちは、生徒にヒットすればいいなと思って、いろんな企画をする。
⇒仮にでも“決める機会”を設定し、そこで指導する。

自ら課題を設定する探究はチャンス！絶好の指導機会！

スライド 64

課題設定どうしてますか？
(次のような指導どう思いますか?)

- 生徒の決めるテーマは浅い場合が多いので、丁寧に指導する
- 生徒はテーマを決められないので、こちらで与える
- どうしてもいいかわからないので、とりあえず放置

スライド 65

本校は生徒が決めることにこだわってます

- 生徒の決めるテーマは浅い場合が多いので、丁寧に指導する
→伴走は重要だが、この方法だと教員の仕事が増えるだけでは？
→生徒が教員の答え待ちになるのでは？
- 生徒はテーマを決められないので、こちらで与える
→与えられたものという意識を持つのでは？
- どうしてもいいかわからないので、とりあえず放置
→伴走しないと、深まらないのでは？

スライド 66

探究×キャリア 実践例

授業スライド(前) 今日の問い

1年かけて高校生活の集大成として自分は何をテーマにするだろうか？
与あなたのマイテーマは何？

<マイテーマ・マイプロの種を探そう！>

(今までコア探究で取り組んできたこと)
・高1コア探究での学び
・高2コア(3000文字チャレンジ、進路探究、チョコプロ)

(他に取り組んできたであろうこと)
・中学校までに取り組んだ何か
・現代社会、政治経済やSDGsの授業での経験
・その他課外での経験(クラブ、学校以外のことなど)

スライド 67

本校が大切にしていること

- * 課題設定も練習なので、何度か練習する。
(だから3つのステージ)
- * 仮のテーマなので決めるのが大事と強調する。
(決めて情報収集することで次に進めるのも重要)
- * いろいろな経験がマイテーマに出会う確率を高める (100%これ! というものはない)
(進路指導などとの関連を持たせるなどの工夫も重要)
- * ポイントはふりかえり。テーマ設定が悪かったことに生徒が気づくことを大切にする。

スライド 68

ポイントはふりかえり

たとえば2学期のチョコプロ、1回目のプロジェクト終了時の授業。

スライド 69

自己評価→他者との対話→自分と対話でふりかえる

1) 自己評価
以下の点について5点満点で採点しましょう。可能な理由を書きましょう。
①テーマの気に入り度 (あっちゃやりたい! =5、あまりやりたくない=1)
()
②テーマについての情報収集 (かなりよくできた=5、ダメ=1)
()
③アクションに向けて課題を明確にできたか? (かなりよくできた=5、ダメ=1)
()
④アクションの具体性や実現可能性 (かなり良い=5、ダメ=1)
()
⑤自分の取り組み方 (積極的=5、消極的=1)
()
→上の①~⑤に1~5の評価を各1つつけるとしたら
・ ・ ・ 5をつけるのは ()、1をつけるのは ()
理由:

スライド 70

2) 対話
プロジェクトについての説明と自己評価を話して、もらったコメント

↓

3) もう少し深く振り返る
・ 今回のプロジェクトが上記のようになった理由は?
・ どうすればもっといいプロジェクトになった?
・ 他の人や先輩のプロジェクトを見て、自分も取り入れたいことは?

4) 今回の経験を踏まえて次はこうしたい! と思うこと

5) 次のテーマは? (思いつく限り書くこと)
(自分で書いた後で、他の人に提案してもらうこと)

スライド 71

ふりかえりで探究サイクルを次のステージへ

探究的な学習

■日常生活や社会に目を向け、生徒が自ら課題を設定する。

■探究の過程を経由する。
① 課題の設定
② 情報の収集
③ 整理・分析
④ まとめ・表現

■自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される。

ふりかえり!

スライド 72

生徒の声 (卒業生・4回生)

自分は今も明確な夢はない「夢を持たないといけない」と言われることには違和感を持っていた。そんな自分だからこそ、自分の内側に対しての質問をされたのが今につながっているように思う。

たとえば探究の授業でプリントに、好きなこと(もの)と、嫌いなこと(もの)5分書く時間があった。そのように少しずつ自分について聞かれることが多かった。正直面倒だったし、気恥ずかしい思いもあった。

でも「そんなわからない」と言いたくなるころを、ちよつとずつ小さな針で突いてもらったから、その段階なりに漠然とでも人生について「こんなことしたいな」とか思えた。

まわりを見ていて、就職活動の時に答えを外側に探しに行く人が多いけど、自分はそうでなく、「こんな風に育ってきて、こういうことを大切にしたい!」って自分の中に答えを見つけていた。高校では「自分の中を見る」って3年間言われてた気がする。

スライド 73



スライド 74

キャリア教育に取り組んだときの悩み

- ・生徒による差が大きい。生徒が決めれない。
- ・取り組む時間がない。講演は単発になりがち
- ・生徒がカタログギフトから選ぶような感覚を持つ

⇒探究で100%解決するわけではないが、指導機会は増える！チャンスが増える！！
 (生徒がマイテーマに出会う確率が上がる)

⇒探究×キャリア教育で、よりよい高大接続が実現しそうな気がする。

スライド 75

卒業生の声 (大学3年生)



プロジェクトという選択をした自分をほめたい
 やりたいことが明確だと生きているのが楽しい！
 探究は自分がやってみて楽しいことを見つけるためにある！

課題設定・マイテーマの設定はすごく重要！

<https://www.youtube.com/watch?v=5346-8N0D4>

スライド 76

今日の内容

- 1、チェックイン
- 2、探究やキャリア教育の重要性
- 3、生徒の学びから考える
- 4、高大の学びをつなぐために大切なこと

スライド 77

高大接続もバージョンアップの時期？

高大接続の名のもと
 にこうしていない？



今、変わるべきは
 このイメージ！



スライド 78

生徒観

- ・生徒はサービスの受益者 (⇔社会の担い手)
- ・生徒は管理・指導されることで学ぶ (⇔自ら学ぶ)

日本の課題

- ・自分で国や社会を変えられると思っていない
- ・学ぶ意味を見いだしていない
- ・責任ある社会の一員と思っていない
- ・解決したい社会課題がない ・将来の夢がない

生徒観がそのまま今の課題につながっている！
 今大切なのは、生徒観の変化 (左から右へ)

➡ 高大接続というチャンスは、生徒を受益者にするとお互いにとってプラスにならない！

スライド 79

学びをつなぐのは誰？

小学校：先生（カリキュラムマップ）
⇒先生が学びをつないでいく




高校は生徒がつないでいく！
(それができるカリキュラムが前提)

スライド 80

実践するときに、少しのマインドの違いが大きな差になる

学びをつながらなければいけない
(徹底指導)

つなぐればいいなあ
(つながる確率を高める？)

こちら（大人）が無理につなげようとする
そのマインドが生徒をお客様にする

スライド 81

馬を水辺に
つれていけても
水を飲ませることは
できない



水飲みなよー
今、飲みたいんでっ

水辺に連れていくことはできる！
(そのための工夫をする)

スライド 82

マインドセットは大切かもしれない

教員のマインドセットには、星の王子さまの「実業家」のような生真面目さがあります。

実業家：真面目で数字にだけ興味。いつも星の数を数えている。数えた星を管理するために、その数を書いた紙を引き出しにしまっている（誰かの役には立たない）。集めることが自己目的化している

「探究が進む学校の作り方」 梨子田先生の文章から

スライド 83

このマインドで取り組みますか？

- ①全員が同じようなことを、同じように取り組んで、同じような到達度にならないといけない
- ②先生が全員の学びを管理し、アドバイスのようなものを生徒に伝えないといけない
- ③生徒にはきちんと成果を出させ、成果が出ない生徒には指導を加えないといけない
- ④公平公正客観的に全員を評価すべき

実業家：真面目で数字にだけ興味。いつも星の数を数えている。集めることが自己目的化している

スライド 84

高大接続は転換点を迎えている

入試＝高大接続だった時代
(そもそも大学進学率も高くない)

↓

1999年12月の中央教育審議会答申
『初等中等教育と高等教育との接続の改善について』
高校生のうちに大学教員の授業を受ける生徒増加
SSHの取り組み、入試広報イベントなど増加

↓

少子化、探究の広がり、大学入試改革で
取り組みは加速度的に増える

↓

次のフェーズは？
生徒の数は減る！

←一方で現場の心ある先生の疲弊や、生徒のお客意識増大という実態。・・・本当に言っている？

